

## 地域再生計画

- 1 地域再生計画の申請主体の名称  
愛知県稲沢市
- 2 地域再生計画の名称  
人と人、人と地域を結ぶグリーン・スパーク稲沢 2 1
- 3 地域再生の取組を進めようとする期間  
平成16年度～平成25年度

### 4 地域再生計画の意義及び目標

#### (1) 稲沢市の地域特性

稲沢市は、濃尾平野のほぼ中央に位置し、奈良時代には国府、室町時代には守護所が置かれるなど、古くから尾張地方の拠点として栄えた地域である。面積は48.35 k m<sup>2</sup>、東西8.6km・南北7.1kmと、やや東西に長く全体的に平坦な地形になっており、人口は約101,000人、世帯数は約35,500世帯である。

市の西南部に隣接する祖父江町と平和町との間で、平成17年 4月 1日の合併を目指して協議を進めており、合併後は、東西約14.4km、南北約9.4km、面積79.30 k m<sup>2</sup>の新市（稲沢市）になる。

#### 地理的優位性

名古屋都心から20 km圏内に位置し、公共交通機関で15分足らずで到着できるのに加え、名神高速道路一宮 I C、東名阪自動車道清洲東 I Cにも近接する交通の便に恵まれた地域である。市の公共交通機関としては、名鉄名古屋本線（以下「名鉄」という。）と J R 東海道本線（以下「J R」という。）が市を縦断しており、市民が利用する主要駅は、名鉄国府宮駅と J R 稲沢駅である。

また、名鉄では大里駅と奥田駅、J R では清洲駅も市内にあり、多くの市民に利用されている。

#### 恵まれた自然環境

稲沢市では、面積の47%が田畑として土地利用されており、名古屋都心から近いにもかかわらず、市街地周辺部に田園風景が広がる自然に恵まれた地域である。

木曽川によって堆積された肥よくな土壌と温暖な気候は、植木・苗木の生産に適しており、その生産は、「稲沢市の顔」というべき重要な地場産業である。

現在は、埼玉県川口市、大阪府池田市、福岡県久留米市とともにわが国四大生産地の一つに数えられている。年間約1,700万本を全国各地に供給しているが、その販路の拡大にあたっては、大正14年、JR 稲沢駅に日本三大操車場の一つである稲沢操車場の開場が大きな役割を果たした。

#### まちづくり推進協議会の設置

稲沢市では、地域をおおよそ中学校区ごとに7つに分け、地域の課題は地域で解決するため、「まちづくり推進協議会」を設置している。活動の拠点は、7つのまちづくり地区（稲沢、明治、千代田、大里西、大里東、下津、小正）各所にある市民センターで、ここには、市の出張所としての市民センター、公民館、老人福祉施設、児童福祉施設の4つの施設が同一敷地内に設置されている。「まちづくり推進協議会」は、地域内にある子ども会、母親クラブ、PTA、学校、老人会、民生委員、体育振興会など様々な団体・人を包含して組織を構成し、市民活動部会、福祉活動部会、青少年育成部会等の部会を持ち、それぞれの地域が競い合って目的に応じた事業を企画・運営しており、地域活性化の一役を担っている。

#### 地域活性拠点となりうる遊休地等の保有

稲沢市は、稲沢駅周辺整備事業として、JR 稲沢駅の東側に広がる約63haにも及ぶ区域の土地区画整理事業を進めている。この中には、日本の三大操車場の一つであった稲沢操車場跡地が含まれ、物資輸送の拠点から尾張西部の都市拠点へ生まれ変わるべく整備事業が計画されている。開発にあたって市で名称を公募した結果、「グリーン・スパーク稲沢21」と決定し、緑を基調とする開発プロジェクトとしてアピールした。この地域の開発に寄せる市内外からの期待は、第4次稲沢市総合計画の中で「活力ある未来をひらくまち」として重点事業に位置付けているのを始め、「中部圏基本開発整備計画」や「愛知県2010計画」の中でも取り上げられていることからもうかがえる。加えて、この63haの北側には、工業団地として造成する「陸田工業団地」の整備を進めている。16年秋を目途に進出企業を決定し、分譲していく予定である。

## (2) 稲沢市の課題

### 環境へ配慮した道路整備

市の南北を縦断する幹線道路は、国道155号線のほか県道も2本整備されているのに比べて、東西を結ぶ幹線道路は、市内を縦断している鉄道の影響等により、県道が1本整備されているだけである。このため、東西幹線道路の交通量は多く、特に東行きは、名古屋へ向かう車や名神高速道路の一宮ICを利用する大型車が多いことから慢性的な交通渋滞が起きており、周辺住民はもとより市全体の環境に対し悪影響を及ぼしている。

### 遅れている稲沢駅周辺地域の活性化

名鉄国府宮駅周辺は、銀行や飲食店などの各種店舗が立ち並び、市の中心市街地として賑わいがあるのに比べ、ＪＲ稲沢駅周辺は飲食店も少なく、市内を通るバスの停留所もないことから、電車を利用する人以外の往来が少なく、同じ市街化区域でありながら寂しい印象を受ける。一日の乗車人数（平成14年度実績）を比較しても、名鉄国府宮駅が11,327人であるのに比べて、ＪＲ稲沢駅が6,616人と約半数にとどまっている。特に、ＪＲ稲沢駅東側の地域は、駅東から駅へ向かうアクセスが非常に不便であり、鉄道と稲沢操車場跡地もあることから東西交流が阻害されてきた。このことは、平成12年に駅の橋上化と東西自由通路が完成するなど、東西交流の環境が整ったにもかかわらず、解決にいたっていないのが実情である。

### 市街地の機能分担

稲沢市は、田園地帯が多い反面、市街化区域が市域の13.7%のみで、県内でも下から2番目の比率である。合併後は、さらに市街化区域の割合が減り、11.3%になることから、市内に点在する工場の集積を図るなど、限られた市街化区域をいかにして有効に活用し、地域の活性化につなげていくかが市に課せられた緊急の課題の一つである。

### 健康で活力ある社会を実現するための拠点施設整備

稲沢市では、他地域同様、少子高齢化に伴い、病気や介護による介護負担が極めて大きな問題になることが考えられる。このため、安心して元気に暮らせるまちをめざして、市民が、健康寿命を伸ばすために専門家のアドバイスを受けながら日頃から健康づくりが実践できる健康増進施設の整備が課題である。

### 知名度のアップ

地理的条件や気候に恵まれた地域であると同時に、尾張地方の国府が置かれるなどの伝統的な地域であるにもかかわらず、県下での知名度が低いのが現状である。

毎年、「新成人と市長と語る会」が開催され、新成人から市政に対する意見・要望が出されるが、その中でも市の知名度の低さを嘆く声が多い。「大学で稲沢市出身といっても、同じ県内でありながら、ほとんどの人がどこにあるのか知らない」、「国府宮は知っていても、それが稲沢市であることを知らない」といった意見が毎年のように聞かれる。

また、これからの稲沢市を担う若者に自分たちのまちを誇りに思えるようにするためにも、恵まれた自然環境を守りながら、いかにして尾張の拠点として蘇らせるかが大きな課題といえる。

## (3) グリーン・スパーク稲沢 2 1（稲沢駅周辺整備事業）の意義

ＪＲ稲沢駅の東側に広がる遊休地を活用して、緑の景観と環境に配慮した基

盤整備等を行うことにより、市が抱える課題の実現を図り、地域経済の活性化と雇用の創出を図るとともに、尾張西部の都市拠点としてふさわしい地域となるように次の事項に取り組む。

#### 基盤整備による地域経済の活性化と雇用の創出

JRと稲沢操車場跡地によって分断されていた地域に一体感を与え、未整備な周辺地区との調和を図るために土地区画整理事業を行い、市街地の一体的整備を進める。

基盤整備を行うことによって、利便性が高く、安全で快適な居住環境を整え、将来的には大規模商業施設を誘致するなど活力ある業務集積に努め地域経済の活性化を図る。

#### 街路事業、緑の歩行空間整備による緑と環境の保護

都市の骨格を形成する街路整備を行うにあたっては、無電柱化を一部地区で行うとともに、緑を基本に、景観に配慮したストリートファニチャー等を配置し、歩道と壁面後退部の一体化を図るなど地域の環境や景観に配慮して行う。

#### 公園整備による「住民自治組織」の活性化

ワークショップにより、公園を整備し、地域のことは地域で考えてもらうため、「まちづくり推進協議会」等地元住民参加による管理手法を導入する。

#### 交流拠点施設の整備・運営による地域の活性化と健康の増進

市民のみならず広域的な交流拠点として、健康増進による生きがいのある生活創造の場づくりを展開し、豊かな地域社会を育む場として、地域交流センター及び多目的広場を整備する。

具体的な事業としては、「稲沢市の顔」として育んできた植木などの「みどり」をテーマにしたイベント、スポーツ科学に基づく指導・トレーニング等の健康増進事業、稲沢の歴史や文化を継承・交流していく事業、さらには人と人の結びつきを深めるための多世代交流事業の開催などを考えているが、今後さらに、市内外から多くの人が集う新しい地域の拠点となるよう調査・研究を進める。

なお、運営については、民間のノウハウを取り入れるなど、その手法について検討する。

#### 陸田工業団地造成による雇用の創出及び市街地の機能分担化

グリーン・スパーク稲沢21（稲沢駅周辺整備事業）の周辺事業として、その北側に工業団地を造成し、市内に点在する工場の集積を図る。このことにより、市街地における住工混在の解消を図るとともに、この地域一体をこれからの都市づくりの先導役として、商業、工業、住居等の都市機能と営農環境が調和する街として形成する。

#### 次代を担うこどもの夢の実現

市内の小中学生から「まちづくりの夢」をテーマとして、将来の稲沢のま

ちづくりに対する思いを作文と絵画で募集した。これは、第4次稲沢市総合計画を策定するにあたって参考にしたものであるが、その中に「稲沢駅周辺地区の活性化」というものがあった。土地を有効利用して、都会的で便利な街にしてほしいという声がある一方で、自然を大切にしたい、人々がふれあう、安心して暮らせる街にしてほしいという要望も多く出された。この地域の開発を単なるハード面の整備に終わらせるのではなく、次代を担う子どもたちに夢を与えるような人に優しいまちづくりを行う。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

名古屋圏における広域的役割分担を図り、都市圏における将来機能の集積強化が期待できる。

商業・業務施設、公共公益施設、住宅などの各種機能が複合的に配置され、都市の総合的なレベルアップが期待できる。

尾張西部地域の活性化が期待できる。

J R 稲沢駅周辺の再整備が進み、都市環境の向上が期待できる。

J R 線や稲沢操車場跡地によって分断されていたこの地域で、地域交流センターなどを拠点として、稲沢を語るうえで欠かせない植木を代表とする「みどり」をテーマにしたイベントやまちづくり推進協議会など地元住民組織を生かした住民主導のまちづくりを行うことは、地域に一体感をもたらすと同時に地域の活性化につながる。

J R 稲沢駅周辺地域の基盤整備、居住環境整備と大規模商業施設等の業務集積は、この地域における人口の増加と稲沢駅を利用する乗客数の増加をもたらすと同時に、市全体における商業、工業、住居等の都市機能と農業等の生産・環境機能との調和に寄与することができる。

大規模商業施設等の集積は、雇用の創出など周辺の市町へも波及していくことが考えられるため、広く尾張西部の拠点として位置付けられている。このことは、かつて国府が置かれ尾張地方の拠点であった地域の再生につながることから、稲沢駅周辺は、市の歴史、文化、伝統を蘇らせる可能性を秘めた地区であるということができる。

居住人口の増加	平成15年度・・・・・・・・平成25年度（目標）	
	600人	2,400人

J R 稲沢駅乗客数の増加	平成13年度	平成14年度・・・・・・・・平成25年度（目標）	
	6,400人	6,600人	7,200人

- 6 講じようとする支援措置の番号及び名称
  - 212011 みちづくり交付金事業の運用改善（目標達成型の導入）
  - 212028 まちづくり交付金の創設
  
- 7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業  
なし
  
- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項  
なし

## 別紙

### 1 支援措置の番号及び名称

212011(国土交通省)みちづくり交付金事業の運用改善(目標達成型の導入)

### 2 当該支援措置を受けようとする者

稲沢市

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市街地中心部と周辺部を連携する街路の整備

J R 稲沢駅周辺地域については、東西に横断する道路が1本のみであり、名古屋市街地へ向かう車や東名一宮ICを利用する大型車などにより慢性的な渋滞となっている。

このため、みちづくり交付金を活用し街路整備を進め慢性的な交通渋滞の解消を図る。

緑の歩行者空間整備

東名一宮ICを利用する大型車が中心市街地を通過することにより、地域住民が安心して歩行できる空間が失われている。

このため、みちづくり交付金を活用し景観に配慮した歩道を整備する。

アウトカム目標：名古屋都心部を中心とする放射道路の整備率

平成16年度当初	49.2%
平成17年度末	52.4%
平成19年度末	55.9%

## 別紙

### 1 支援措置の番号及び名称

212028（国土交通省）まちづくり交付金の創設

### 2 当該支援措置を受けようとする者

稲沢市

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

#### 地域交流センター及び多目的広場の整備

稲沢市においては、地域を7つに分けそれぞれに「まちづくり推進協議会」を設置し地域福祉活動等を行っている。それら協議会の活動拠点としてまちづくり交付金を活用し地域交流センター及び多目的広場を整備することを検討する。

#### 稲沢駅周辺における土地区画整理事業の実施

JR稲沢駅東側の遊休地を活用し、まちづくり交付金を活用して土地区画整理事業を行う。